

電子システム工学基礎実験 報告書

グループ^o: A

実験題目 電流と磁場

報告者 第 1 班 学生番号 21121001 氏名 浅井 雅史

メールアドレス b1121001@edu.kit.ac.jp

共同実験者 学生番号 21121002 氏名 浅岡 駿介

学生番号 21121007 氏名 伊藤 大智

学生番号 21121008 氏名 井上 翔陽

学生番号 _____ 氏名 _____

実験実施日 2022 年 11 月 24 日 天候 曇り 温度 17 ℃ 湿度 51 %

報告書提出 (第1回目) 2022 年 11 月 30 日 ⇒ 受理 / 要再提出

(第2回目) 年 月 日 ⇒ 受理 / 要再提出

報告書受理日 (最終) 年 月 日

報告書提出者の自己チェック欄(できていれば□にチェックせよ)

☒実験結果は示されているか？

☑図表の書き方・まとめ方は適切か？

☒ 考察は十分になされているか？

☑演習問題はできているか？

☒ レポートとしての体裁は適切か？

[注意] ・自己チェック欄が未記入のレポートは内容を見ずに返却する

- ・自己チェック欄と内容に相違があるものは、その程度に応じて減点する

<p>[報告書に対する教員の所見]</p> <p><input type="checkbox"/>図表の体裁に不備がある</p> <p>()</p> <p><input type="checkbox"/>実験結果のまとめ方が適切でない</p> <p>()</p> <p><input type="checkbox"/>結果に対する考察が不足している</p> <p>()</p> <p><input type="checkbox"/>演習問題が解答されていない</p> <p>()</p> <p><input type="checkbox"/>レポートとしての体裁が整っていない</p> <p>()</p>	<p>[所見に対する報告者の回答]</p>
裏面に続く	裏面に続く

1 目的

ソレノイドを用いて電流と磁場 \vec{H} の関係を理解すると共に、それらの測定原理およびその方法を習得する。

2 原理

2.1 ソレノイドによる磁場

図1のような半径 a 、長さ b の円筒ソレノイドによって中心軸上 ($r = 0$) の P 点に作られる B_z は、単位長さあたりの巻数を n 、ソレノイドに流れる電流を I とすると、

$$B_z = \frac{\mu_0 n I}{2} (\cos \theta_2 - \cos \theta_1)$$

であるから、ソレノイドの総巻き数を $N(=nb)$ 、左側から P 点までの距離を z とすると、

$$\cos \theta_1 = \frac{z - b}{\sqrt{a^2 + (z - b)^2}} \quad , \quad \cos \theta_2 = \frac{z}{\sqrt{a^2 + z^2}}$$

であるから、

$$B_z = \frac{\mu_0 N I}{2} \left\{ \frac{z}{\sqrt{a^2 + z^2}} + \frac{b - z}{\sqrt{a^2 + (z - b)^2}} \right\}$$

となる。

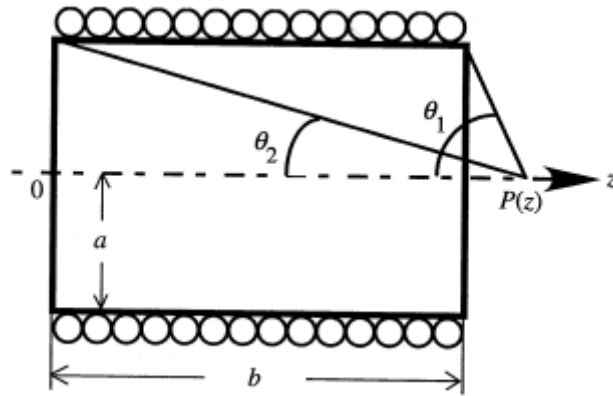


図1 有限長ソレノイド

2.2 磁気プローブ

巻数 N が 1 巻のコイルに鎖交する全磁束 Φ が時間変化すると、コイルの両端に、

$$V_{co} = -\frac{d\phi}{dt}$$

の誘導電圧が現れる。このコイルの大きさが \vec{B} の空間変動に比べて十分小さければ、コイルの断面積 S 上で $|\vec{B}|$ が一定とみなすことができる。多くの場合、 N の値は (≥ 2) であり、この時の全鎖交磁束は、

$$\phi \simeq NBS$$

であるから、

$$V_{co} = -\frac{d(NBS)}{dt} = -NS\frac{dB}{dt}$$

と書ける。この式の右辺は B の時間微分の形になっているので、 B を求めるためには両辺を時間積分すれば良い。つまりコイル電圧 $V_{co}(t)$ を時間積分することにより、

$$B = -\frac{1}{NS} \int_0^t V_{co}(t) dt$$

として B の値を得ることができる。この方法を磁気プローブによる磁束密度測定法という。

2.3 ログスキーコイルを用いた大電流測定

アンペールの周回積分の法則より、任意の閉ループに沿った B の線積分はそのループと鎖交する電流 i の値を与え、ループの形状によらない。このことから、断面積 S 、全巻き数 N 、長さが l のログスキーコイルが i を取り囲む形で置かれていると、

$$\mu_0 i = \oint \vec{B} \cdot d\vec{l}$$

という式が成り立つ。よって $i(t)$ の作る磁束の時間変化によりログスキーコイルの両端に現れる誘導電圧 $V_e(t)$ の関係は、

$$i = -\frac{l}{\mu_0 NS} \int_0^t V_e(t) dt$$

となる。また、電流路とログスキーコイルの相互インダクタンス M が既知の場合、 V_e は、

$$V_e = M \frac{di}{dt}$$

なので、

$$i = \int_0^t \frac{1}{M} V_e(t) dt \simeq \frac{RC}{M} V_c$$

としても求めることができる。

3 実験

3.1 実験器具

TEKTRONIX TBS1022 オシロスコープ, ソレノイドコイル, 磁気プローブ, ロゴスキーコイル, 高電圧パルス大電流発生電源, 抵抗 ($220\text{ k}\Omega$), 可変抵抗 ($< 20\text{ }\Omega$)

3.2 セットアップ

1. 図 2 のように実験配置を組み立てる. ただし, 外部抵抗 R (可変抵抗) は臨界制動波形となる抵抗値になるように調整し, 接続する.

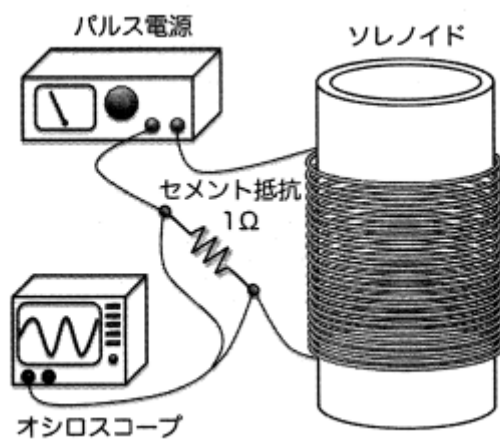


図 2 実験装置

3.3 磁気プローブによる磁場測定

1. 磁気プローブのターン数 N と断面積 S を実測により求め、記録する。
2. 図 3 のように実験器具を配置し、磁気プローブをソレノイド中心軸上の適当な位置に保持し、放電する。この際、充電電圧は 50 V 程度とし、その値を記録する。
3. 抵抗 R の両端は臨界制動波形 V_R が現れ、磁気プローブからは出力波形 V_{co} が得られることを確認する。
4. 磁気プローブをソレノイド中心軸上に沿って動かしながら、ソレノイド中心軸上の z 座標と、その点で得られた臨界制動波形 V_R および出力波形 V_{co} を記録する。ただし、磁束密度分布 $B_z(z)$ が滑らかに算出できるように細かく測定を行う。

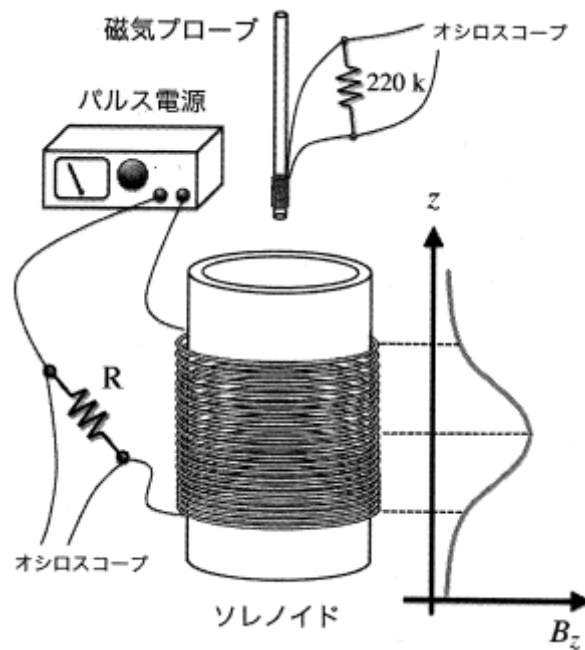


図 3 実験課題 1 における実験配置

3.4 ログスキーによる電流測定

1. ログスキーコイルのターン数 N ，断面積 S ，円周長さ l の値を実測より求め，記録する．
2. 図 4 のように実験器具を配置し，実験を行う．この際，充電電圧値を記録する．
3. 抵抗 R の両端は臨界制動波形 V_R が現れ，ログスキーコイルからは出力波形 V_e が得られることを確認する．
4. ログスキーコイルを貫く導線の数 (鎖交電流) を徐々に変化させて，鎖交数と得られた出力波形を記録する．

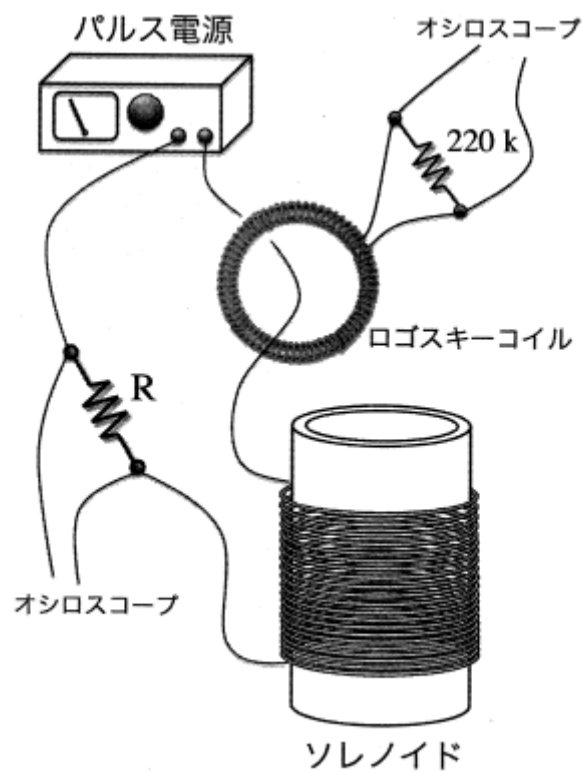


図 4 実験課題 2 における実験配置

4 結果

4.1 実験課題 1

ソレノイド底面を $z = 0$ [cm] とし, 各 z 座標における測定結果を以下の図 5～図 27 に示す. また, z 座標と磁気プローブの出力 V_{co} の積分である $\int_0^t V_{co}(t)dt$ との測定結果を表 1 に示す. ただし, 磁気プローブの出力 V_{co} の積分はオシロスコープから得られるデジタルデータ (テキストデータ) を使用して算出する方法を用いる.

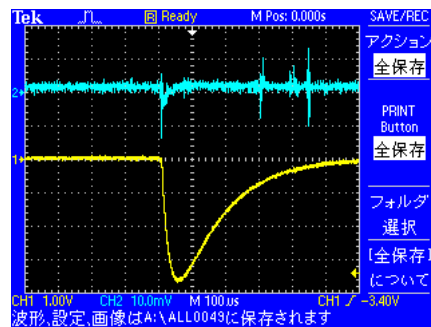


図 5 $z = -10$ [cm] における測定結果

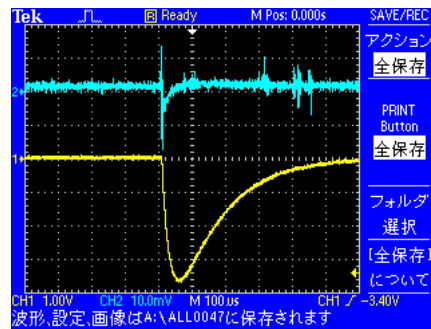


図 6 $z = -8$ [cm] における測定結果

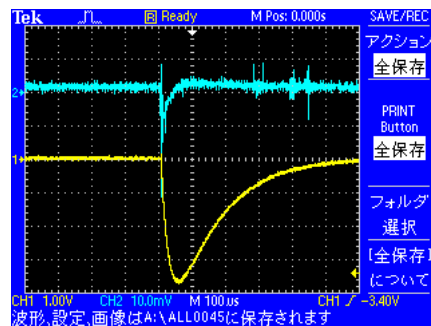


図 7 $z = -6$ [cm] における測定結果

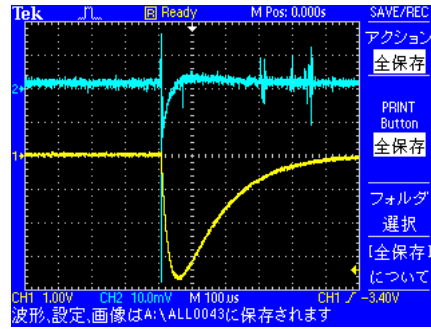


図 8 $z = -4 [cm]$ における測定結果

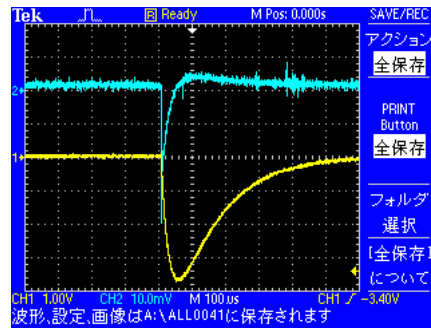


図 9 $z = -2 [cm]$ における測定結果

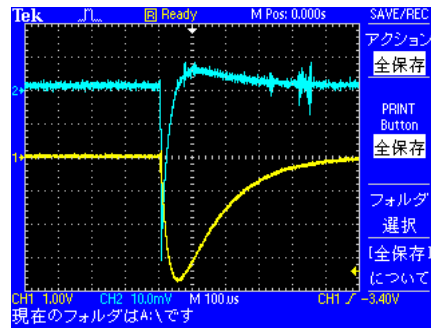


図 10 $z = 0 [cm]$ における測定結果

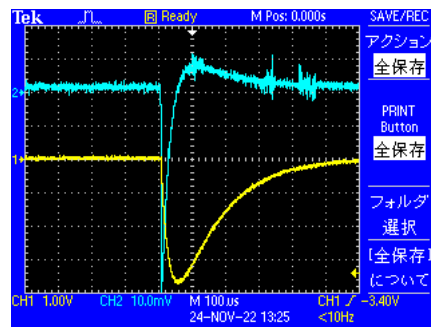


図 11 $z = 2 [cm]$ における測定結果

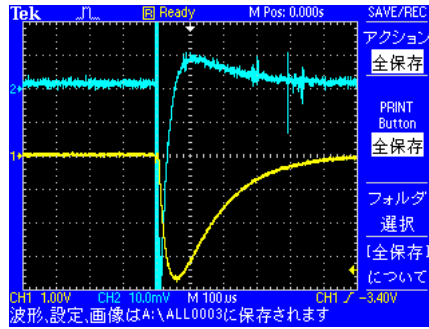


図 12 $z = 4 [cm]$ における測定結果

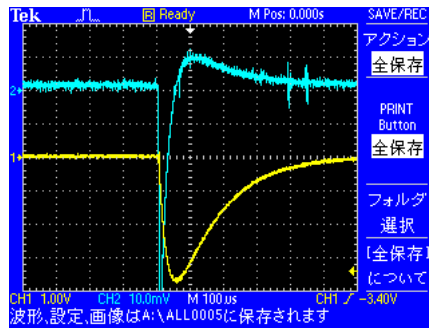


図 13 $z = 6 [cm]$ における測定結果

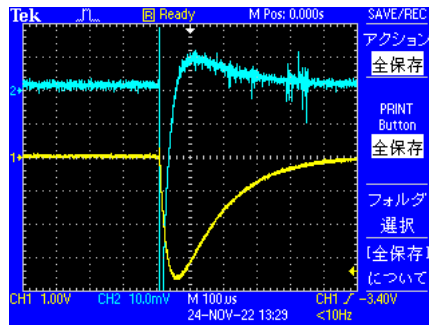


図 14 $z = 8 [cm]$ における測定結果

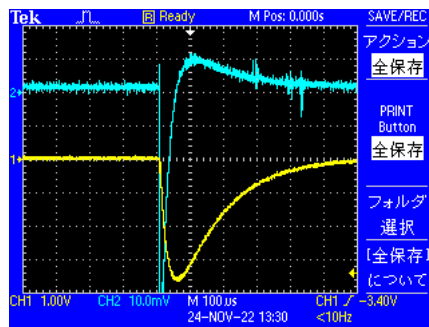


図 15 $z = 10 [cm]$ における測定結果

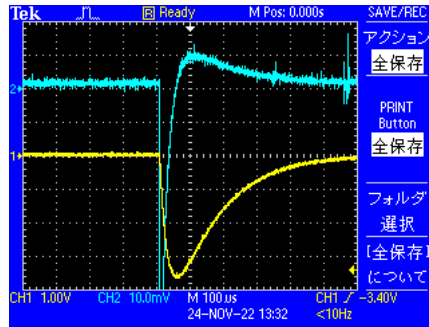


図 16 $z = 12 [cm]$ における測定結果

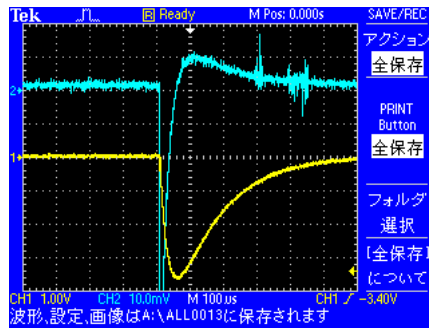


図 17 $z = 14 [cm]$ における測定結果

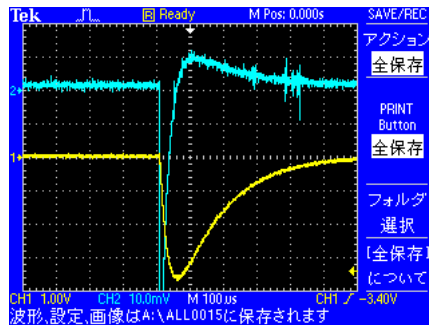


図 18 $z = 16 [cm]$ における測定結果

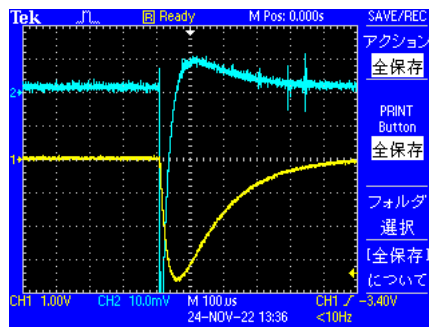


図 19 $z = 18 [cm]$ における測定結果

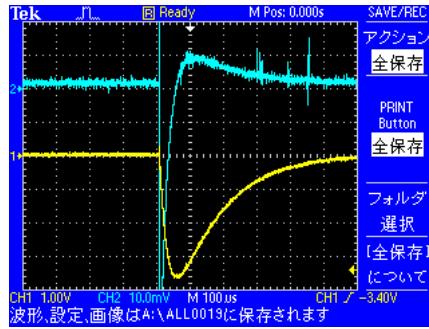


図 20 $z = 20 [cm]$ における測定結果

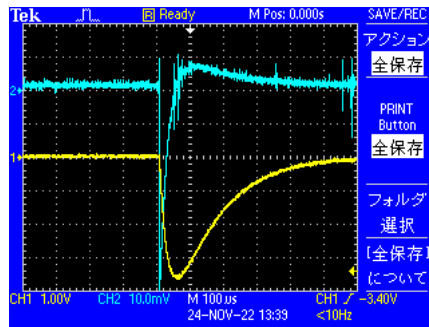


図 21 $z = 22 [cm]$ における測定結果

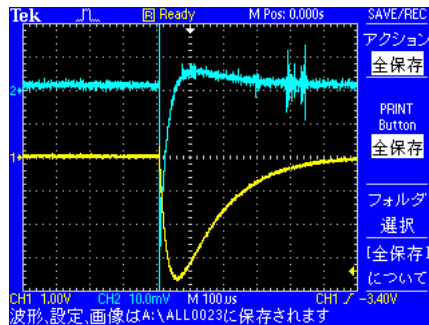


図 22 $z = 24 [cm]$ における測定結果

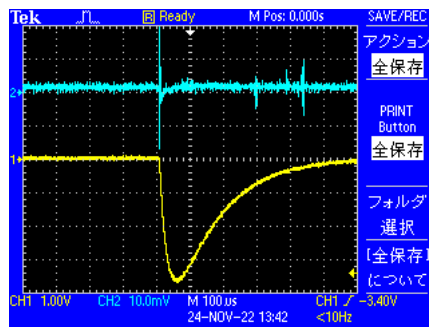


図 23 $z = 26 [cm]$ における測定結果

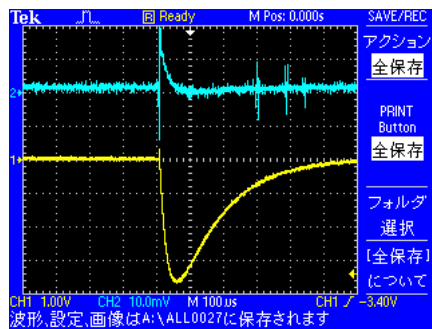


図 24 $z = 28 [cm]$ における測定結果

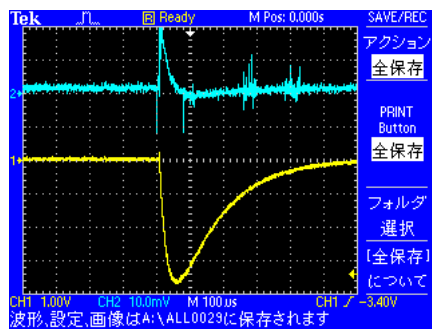


図 25 $z = 30 [cm]$ における測定結果

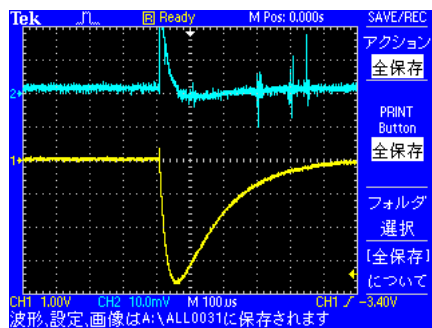


図 26 $z = 32 [cm]$ における測定結果

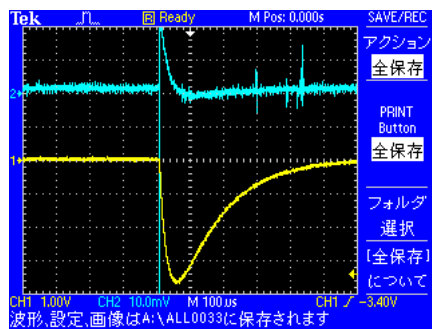


図 27 $z = 34 [cm]$ における測定結果

5 データ解析と考察

1. 実験課題 1 で得られた結果から、ソレノイド中心軸上の軸方向磁束密度分布 $B_z(z)$ を算出せよ。ただし、導出過程も示すこと。

各 z 座標における磁気プローブの出力 V_{co} を積分し、 $\int_0^t V_{co}(t)dt$ を算出する。その後、ソレノイド中心軸上の軸方向磁束密度分布 $B_z(z)$ を以下の式で求め、算出結果を有効数字 3 桁で表 3 に示す。

$$B = -\frac{1}{NS} \int_0^t V_{co}(t)dt$$

ただし、各パラメータは次のようになる。

$$N = 33 [\text{回}], S = \pi r^2 = \pi \times 0.00275^2 \simeq 2.38 \times 10^{-5} [\text{m}^2]$$

2. ソレノイド中心軸上の軸方向磁束密度分布 $B_z(z)$ をビオ・サバルの法則を用いて計算せよ。ただし、ビオ・サバルの法則を明確に示し、そこからソレノイド中心軸上の磁束密度を求める導出過程も詳細に記述すること。

ビオ・サバルの法則より以下の式が成り立つ。

$$d\vec{B} = \frac{\mu_0 I}{4\pi} \frac{d\vec{l} \times \vec{r}}{|\vec{r}|^3}$$

ここで、図 1 のような有限長ソレノイドについて考えると、単位長さあたりの電流は $nIdz$ であるから、ビオ・サバルの法則より、

$$dB = \frac{\mu_0}{4\pi} \frac{nIdz dl \sin \theta}{r^2} = -\frac{\mu_0}{4\pi} \frac{nI \sin \theta}{a} dl d\theta$$

となる。ここで $\int_c dl = 2\pi ab$ であり、 $d\theta$ を $\theta_1 \rightarrow \theta_2$ で積分すると、以下の式が成り立つ。

$$B = \frac{\mu_0 NI}{2} (\cos \theta_2 - \cos \theta_1)$$

したがって、ソレノイド中心軸上の磁束密度は以下の式で求められ、その算出結果を有効数字 3 桁で表 4 に示す。

$$B_z = \frac{\mu_0 NI}{2} \left\{ \frac{z}{\sqrt{a^2 + z^2}} + \frac{b-z}{\sqrt{a^2 + (z-b)^2}} \right\}$$

ただし、各パラメータは、

$$N = 33, \mu_0 = 1.257 \times 10^{-6} [\text{H/m}], a = 0.0465 [\text{m}], b = 0.250 [\text{m}]$$

となり、電流 I は $R = 10.6 [\Omega]$ に関して、 $I = \frac{V_R}{R}$ で求める。

3. 設問 (1) および (2) で得られた結果をグラフに重ね書きしなさい。そして、貴方のプローブ測定精度を有効数字 2 桁で示せ。

設問 (1) および (2) で得られた結果を重ね書きしたグラフを図 に示す。プローブ測定精度を以下の式で求め、その算出結果を有効数字 2 桁で表 5 に示す。

$$\frac{\delta B}{B} = \frac{\text{実験値} - \text{理論値}}{\text{理論値}}$$

4. 実験課題 2 において, 抵抗 R の両端の電圧波形 V_R から閉ループ回路に流れるパルス電流の最大値を求めよ. 導出過程も示すこと.

各鎖交数における電圧波形 V_R におけるピーク電圧 V_{Rmax} を読み取ることで, 閉ループ回路に流れるパルス電流の最大値 I_R は以下の式で算出される.

$$I_R = \frac{V_{Rmax}}{R}$$

この算出結果を有効数字 3 桁で表 6 に示す. ただし, $R = 10.5 [\Omega]$ である. 表 6 より, パルス電流の最大値の最確値は次のように求められる.

$$I_{RS} =$$

5. 実験課題 2 において, ロゴスキーコイルの出力 V_e から閉ループ回路に流れるパルス電流の最大値を求めよ. 導出過程も示すこと.

閉ループ回路に流れるパルス電流は以下の式で算出される.

$$i_e = -\frac{l}{\mu_0 N S} \int_0^t V_e(t) dt$$

この算出結果を表 7 に示す. ただし, 各パラメータは次のようになる.

$$\mu_0 = 1.257 \times 10^{-6} [\text{H/m}], N = 219, S = \pi \times 0.11875^2 \simeq 0.04430 [\text{m}^2], l = 2\pi \times 0.11875 \simeq 0.7461 [\text{m}]$$

参考文献

[1]